

令和7年度小平市立小平第一小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関するなどを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸侧面等に関するなどを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

全国平均と比べ5ポイント高く、中でも知識・技能の言語文化に関する事項が特に高い。一方、読むことに関する事項は他の事項と比べて低く、特に目的に応じて必要な情報を見付ける力は全国と比べると6ポイント低かった。

読むことの正答率が低いことが分かった。初めて読む文章でも正確に読み取る力や、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力、文章を図表などと結び付けて必要な情報を見付ける力を高める必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

教科書の文章以外にも新しい文章に触れる機会を増やしたり、新聞記事等の要旨をまとめる活動を設定したりして、文章を読み取る活動を増やす。その際にそれぞれの文章や資料の語句や情報を囲んだり線で結び付けたりしながら読む指導を行う。また、読書の機会を取り入れていく。新しい単元に入ったときには意味調べの時間を作り、語彙を増やしていく。

【算数】

状況の分析

課題

全国平均より7ポイント、都の平均より1ポイント高く、東京都とほぼ同じである。図形、測定の領域がやや低く、苦手さが見られる。観点別で見ると、知識・技能に比べて思考・判断・表現の正答率が17ポイント低い。

文章題が苦手な児童が多いことが分かった。問題文を理解して正確に読み取り場面をイメージする力、その場面を式に表す力が十分に身に付いていない児童が多い。特に、数量関係を正確に理解する力を高める必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

東京ベーシックドリルや復習プリント等を活用し、学習内容の定着を図る。問題場面を図や数直線に表したり、問題文に線を引いたりするなど、学習課題や数量関係を正確に捉えられるようにする。計算力の向上を目指し、既習の計算を繰り返し取り組むようにする。習熟度別での学習活動の中で学びが深まるように、一人一人の学習状況にあった基本・発展・統合的な課題を提示し、既習事項を活用する力を身に付けていく。また、理解が不十分な児童には補習の時間を利用し、基礎・基本の徹底をしていく。

【理科】

状況の分析

全国平均より7ポイント、都の平均より4ポイント高いが、全体的に正答率は高いとは言えない。特に「エネルギー」「粒子」を柱とする領域で正答率が低かった。また、記述式の問題の正答率も選択式に比べると低く、苦手さが見られる。

課題

電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関する理解に課題が見られた。
また、記述式の正答率が低いことから、自分の考えを表現することが苦手な児童が多いことが分かった。

学校で取り組む具体的な改善策

学習した内容が身の回りの生活のどのようなことに活用されているのか考え、共有する時間を作るなど、実験や学習を通して身に付けた知識を活用することができるよう指導を充実させる。

予想や結果・考察において、自分の言葉で書くことを積み重ねていく。ねらいに関する学習用語を確認し、自分の言葉でまとめられるように指導していく。班活動を基本とし、意見を交流しやすい環境を整えることで、多様な意見に触れることと、自信をもって意見を発表することができるよう指導する。

【質問紙】

状況の分析

タブレットを活用することについての質問では、授業中の使用や、家庭での使用について積極的に使っていると回答する児童が多くかった。

読書は好きだがあまり普段は読書をしていない児童が多いことが分かった。

各教科の好き嫌いや理解度に差がある。また、理科で学習したことを生活の中で活用できていると答えた児童が国語や算数に比べると少なかつた。

課題

学習においてタブレットを積極的に使用できているが、使い方のルールが守れず、依存傾向にある児童が見られる。

読書の時間を取る必要があるが、学校だけではその時間の確保は難しい。家庭と連携して少しでも本に触れる時間を確保していく必要がある。

各教科の学び方や日常生活と結び付けていくことにも課題が見られる。

学校で取り組む具体的な改善策

タブレットの使用については、学校、家庭でのルールの確認、徹底を行う。授業でも適切な活用を心掛け、依存しすぎない使い方を指導していく。

国語、算数でも読解力に課題があることがわかつたため、読解力を伸ばすための方策の一つとして読書の時間を意図的に確保していく必要がある。日常的に本に触れる機会を増やすためにも、家庭と連携して読書の時間を確保していく。

教科指導については、児童が興味をもてる導入や発問の工夫を行い、興味をもって学習に取り組めるようにしていく。苦手な児童には適宜声掛けや理解の確認を行い、丁寧な指導を心掛けていく。